



1 設計概要

景観と観光客

敷地：豊国神社裏沿岸沿い

面積：30 m²

選定理由：多くの外国人

観光客が訪れる大鳥居が

見える巖島神社近辺の

沿岸部に異なる趣を生み出す

透き間樹を取り入れた箱を設計した。

2 命名した手法

「透き間樹」

命名した「透き間樹」は箱根にある御宿のロビーラウンジにあった大きな窓と下に植えられた木々から見える箱根の景色が忘れられず、木々の透き間から見える景色は日常の景色とは異なる「和」を生み出していると考えこの名前を付けました。

透き間樹から望む佳景

3 コンセプト

「透き間樹」が生み出す新たな佳景

多くの人魅了されるであろう見晴らしの良い絶景。しかし、私は見晴らしの良い絶景ではなく、見えにくいけれど、「透き間」から覗く、広がる絶景とは異なる趣を持つ佳景に焦点を当てました。公園の遊具にあるような覗き穴や洞窟の穴から差し込む光、雲の間から差し込む光、木々から漏れ出る日差しなど大きく広がる景色は解放感があって気持ちの良いものだが、私たち人間が安らぎや落ち着きを感じる瞬間は「透き間から覗いたり差し込んだり柔らかく優しいもの」ではないのかと考えました。そこで私は潮の満ち引きによって顔を変える世界的にも人気が高い観光地「巖島神社」の大鳥居を異なった趣を感じられる空間の設計をしました。箱の中は「透き間樹」が生み出す佳景を思う存分体験してもらいたいという意図から長机と椅子そしてその奥に広がる景色という3要素しかない空間に仕上げました。

4 敷地詳細

豊国神社裏沿岸沿い

大鳥居だけを巖島神社境内でより近くで見ることができる豊国神社の裏手に位置する沿岸部の突出している部分に透き間樹がある箱を設計しました。

